



秋の海の静かなたたずまいは格別である。  
春ののったりした海、夏のべた風とは違い、清澄な静け  
さとやすらぎがある。



町内めぐり駅伝のスタートである。  
4ヶ所の中継点で待つ選手との間には已に信頼と協調が  
交感されていることであろう。



27回寺泊シーサイドマラソンの一団がオゾン一杯の海  
の気を胸一杯に呼吸して力走。  
海はそろそろ秋の色である。



月刊 第 591 号

# ふるさとだよりも

## 町もカウントダウン

ふるさとだよりもいよいよ五  
九一号となった。五十年六〇〇  
号で一応終刊と言う方針です  
から、今号も含めてあと十回の刊  
行と言うことで一号一号カウン  
トダウンの思いで編集して参り  
たいと思っています。

寺泊町としての最後のイベント  
と思えば思いもひときわと言  
うことになりませう。  
九日には観光魚まつりと農業  
祭が合同で催され海岸は随分賑  
わいました。よさこいソーラン  
やハワイアンフラダンス、寺泊  
太鼓が雰囲気を盛り上げ、魚の  
競り市、宝さがしも例年の如く  
大盛況で、農産物の直売や餅つ  
き、牛の丸焼きと海の幸山の幸  
が大盤振舞いと言ったところで  
豊かな自然に恵まれたふるさと  
を実感するとともに、このふる  
さとを守りつづけて行かなけれ  
ばならないと強く感ずる一日と  
なりました。途中俄雨と言う場  
面もあったものの寺泊観光締め  
くりのイベントも無事終りま

した。  
翌十日は久々に体育の日が丁  
度十日に当り天気の特異日との  
名をけがさぬ晴天の中で町内廻  
り駅伝が行われました。  
海岸の文化センターはまなす  
が出発点とゴールと言うことで  
スタート、坂井町から旧町道を  
ぬけ大宮から新道、パイバスを  
金山大和田へと走り夏戸小学校  
を過ぎると左手友年方面へ向い  
新しい農道を下桐裕田方面へ抜  
け国道一六号線を教ヶ曾根交  
又点から竹森法崎へ駆け抜け本  
山弁天から円上寺、渡部の街道  
へ出ると海岸へ向け前坂を下つ  
てすぐの小路から海岸通りへ出  
てゴールの文化センターと言う  
全長約二十キロを五人でリレー

するもので今回が第四十九回大  
会、偶然であろうが四十九チ  
ムがエントリー、職域チーム、  
同級生チーム、各集落チーム、  
学校のクラブチーム、意気投合  
チームと内容もバラエティに富  
みそれだけに応援団も巾が広く  
盛んに声援、結果は一位は若者  
チームのハードゲイ、二位鰯口  
チーム、三位四十五歳チーム、  
四位はベテランの健走会 A、五  
位は健走会 B、六位走 RUN 会  
と言う順位であったが四十九回  
大会を四十九チームが完走、特  
にそれぞれのコースこれが寺泊  
町最後のことと思えば景色も又  
格別に目に焼きつけつつ各選手  
は走ったことと思われ。  
つづいて十六日はこれまた晴



阪神優勝で寺泊の魚のアメ横でも売トラセール。  
決して便乗型のセールではない。  
この店の社長は根っからの阪神ファンで有名。



観光魚まつりと農業祭の合同イベント。  
会場には海の幸山の幸が一杯。  
俄雨に急襲されながらも当日は大盛況であった。



ツワブキは満開、順徳帝ゆかりの白菊もつぼみがふくらみ初めての秋の一日。聚感園での茶席。初めてではあったが心相む会となった。

天に恵まれての第二十七回寺泊シーサイドマラソン大会。遠くは大阪、東京、群馬、埼玉、福島、長野と県外からの参加者も多く海沿いの景観とオゾンたっぷりコースそれにゴールしての熱々の番屋汁も人気で寺泊町としての大会はこれが最後となるわけだが大会運営等手慣れた寺泊地区の大会として今後も継続されて行くものと思われる。

二、三日には聚感園で茶会が開催された。かつては良寛茶会が密蔵院を主会場に照明寺境内で催されたが久々の茶会である。当日はいささか危気な天候であったが華やいだ雰囲気の中で通りすがりの外人観光客も顔を見せたりと開放的なムードで楽し

一日となった。かつて商店街の活性化を唱い文句に大町上田町の商店会あかね通り商店会が結成され試行錯誤の中努力して来た経緯がありその延長線での催しであり、由緒ある聚感園は又とない会場で初君祭などと連携しながら是非つづけて欲しい催しでもあり、短歌や俳句の会、琴や民謡の会などと連動すれば雅びた寺泊の顔が見えてきそうな期待がふくらむ催しとなるのではなかろうか。

## とっておきの寺泊

さとうのふひと

全国的に越前クラーゲの被害がニュースになっていて、寺泊でもここ数年この季節には相当の被害を蒙っている。特に鮭の定置網の入る季節と重なるわけで大発生している今年だけに成行きが懸念される。そろそろ秋の美味しい魚の季節で丸々と太った鯖の水揚げも聞こえてくる。出雲おけさの囃にも「秋は秋鯖嫁には内緒」の文句があるが、鯖もさることながら冬眠に入る前のワタリバも美味しいのだと聞く。鮭も獲れはじめたようだ。

庭の小さな柿の木がいくつか実をつけ、赤くなり始めました。イチジクも実をつけ、口を開いて熟れたものから傍若無人なカラスの餌となり、その食べ残しを小鳥がついばんでいきます。小さな庭の中でも多種類の草や虫や蛙などの小動物がせめぎ合い、生態系を形成しています。食物連鎖が目に見えるようです。われわれ人間には、このこ

が、曼珠沙華の赤色と溶け合っていました。秋を彩る生命力の強いこの二色が、年々視界から遠ざかっているように思われま

す。あまり歓迎されない植物で、すぐ刈られてしまうせいでしょ

うか。

自然のバランスを取り戻し、多様な生物の生存を可能にしていく。むしろ「共存」という言葉が当てはまります。生態系のバランスが崩れると単体の植物や虫の異常繁殖、異常発生に結びつくと言われています。

さて、寺泊の農村部のほとんどは沖積層で、縄文海進期のころは浅い海の底でした。海水が退いてからも長らく沼地でした。しかし、西山丘陵と呼ばれる入江の多い洪積層のほんのわずかな台地に、縄文遺跡や弥生遺跡が点在しており、古くから



寺の本堂での音楽のイベントは仲々音響効果が良いと評判。9月22日養泉寺本堂で満堂の聴衆の中で高校生グループのギター演奏。



老人パワー全開の運動会。高齢少子時代などと少々肩身の狭くなるような表現もあるが、負けてたまるか、戦後誰が日本を築いたのか。



永い間ご苦勞さまでした、今日は皆さん久々に顔を合わせてお楽しみ下さいと海岸地区の敬老会。  
今年の実行委員長は第二区々長。

ヒトの住んでいたことが知られていない。ヒトの住むところは必ず死があり、死者の霊を祀る墓地があります。霊は高きに、ヒトは低きに。寺泊は人口に比して神社と寺院が多く、いづれも高台にあることで知られていますが、古代の墓地は台地の一段上にあったものと思われます。霊の寄るところとして、神社は寺院より古層にあります。明治16年(1883)の「神社明細帳」に、寺泊で一三の神社が登録されています。もちろん圧倒的多数が近世以降の創立です。しかし古い神社のあるところは、仏教が入ってくる前の古代の墓地跡と重なっているよう

な気がしてなりません。手前勝手な想像に過ぎませんが。寺泊のとっておきの自然を、カ所紹介いたしましょう。寺泊には、西山丘陵の谷あいには拓けた集落がいくつかあります。「引岡」はそのひとつです。集落の真ん中を突き抜ける農道で方位磁針を振ると、西北の村外れに神社がありました。なるほど、と。西北は死霊の集まる方角なのです。この神社は鳥居に「信安神社」と書かれた額があるのに、拝殿には「白山神社」「諏訪神社」と二枚の額が掲げられています。大宮さんに電話してお聞きしたら、「信安」は地名、「白山」「諏訪」は祭神、とのこと

でした。村外れの「信安神社」脇から、軽自動車やっと一台通れる農道を登ります。かつての棚田が鯉の養殖場に転用されています。谷が狭くなり、これ以上はクルマで進めない地点が大きな沼の堰になっています。付近の沢から落ちる水を、谷あい堰き止めて溜めた人工のダムで、近辺の貴重な農業用水になっていきます。たとえ人工の沼だとしても、濁々と水を湛え、古色蒼然とした歴史を感じさせる貫禄があります。草刈りの行き届いた沼の土手から、谷あいにせばまっっていく沼を眺めると、森の精霊の息遣いが感じられるほどの静けさで

す。木々の緑が水面に枝垂れかかり、寺泊にもこんないいところがあったのか、と誰しもがきつと吃驚するはず。ところが、最近訪れたところ、沼に沿った歩道のすぐ上に、クルマの通れる林道の工事が始まっています。だいぶ前のことになりましたが、沼に沿ってつけられた細い山道を歩き、様々な角度から沼とそれを覆う鬱蒼とした木々を眺めました。沼を超えてさらに奥に登ると、また一つ沼があつて、その行き止まりは手つかずの自然に近い、あらゆる生き物の楽園のような世界が広がっていたと記憶しています。そこで心ゆくまで自然観察を楽しんだ

ものです。記憶違いでしょうか。クルマが入らないからこそ保全されていた景観が、これでは台無しです。一度壊された自然は、復元するまで時間がかかります。この林道工事はどこまでやる計画なのでしょう。残念です。願わくば工事を中止してほしいものです。

**誌代御後援(敬称略、順不同)**

千葉県	赤神	誠	金三千元
相模原市	島谷	藤弘	金一万元
東京都	山田	ナミ	金五千元
吉田町	矢引	和枝	金三千元
新潟市	能登	太一	金三千元
寺泊町	伏見	弥生	金三千元
	平石	義孝	金三千元
	法福	明	金五千元
	土田	明	金三千元

### 小波会九月句会詠草

兼題 稲妻・龍馬他当季

稲妻や

異形の影を現わにす

中村 流瓢

稲光

映の小村を見へ隠し

水沢 蕉子

いなびかり

小児病棟容赦なく

江原 汀子

稲光

遠い昔を垣間見る

竹内 霍山

土間の隅

いとどは鳴かず雨止まず

小島 温石



今年はアケビの成り年らしい。  
お内佛や床ノ間などに供えられているのが目につく。  
このお宅では傘立てのアクセサリーに。

追えばなほ

高く跳び去るいとどかな

外山 海子

闇の奥へ

龍馬消えゆく一人の夜

小形 美代

いとど跳ぶ

漁師番屋の荒筵

外山きよし

霧晴れて

裸婦像胸を現にす

加勢 白汀

秋天や

つがいの朱鷺の羽づくろひ

内藤 蓮子

猫の子の

じゃれて飛びつく枝垂れ萩

小島 冬扇



刈り終えた田圃の不思議な風景。  
圃場設備と機械化で水気の多い田圃は暗渠工事が必要、  
その準備段階。

兵の碑や

夕日に燃ゆる彼岸花

能登 頑牛

湯加減は

少し熱めに秋の夜

大越碧水子

### あとがき

御当地ソングと言われる歌があるが「新潟ブルース」などはそのいい例で我々も旅行先の宴会で歌ったり、旅行客も御祝儀気分がよく歌ったりする。「寺泊」の文句がチラリ入った歌は聞いたことがあるが、最近有線放送でまさに寺泊の御当地ソングではないかと思われる歌が流れると言うので観光案内所に尋ねて見たらそれらしきC

Dがあると云うので早速お借りしてみた。作詞近藤しげる、歌金藤のぶひこ「あなたのふるさとだから」がその歌である。

一、佐渡が火傷をするような真つ赤な夕日の日本海  
あなたが生まれた  
ふるさとだから  
私も好きです寺泊  
袖に吹き込む吹雪も雨も  
二人連れなら耐えられる  
二、親の意見に背を向けて  
ここまで来ました日本海  
あなたが生まれた  
ふるさとだから  
越後の訛りも慣れました  
人の噂に負けそな時は  
夕日眺める野積橋  
× × ×



船から水揚げされた魚は、種類別、大小の別で仕分けられて箱に詰められ競りを待つことになる。

毎月二十日発行

寺泊ふるさとだより

誌代税共(百円)

編集人 中村 興樹

発行人 新潟県寺泊町

発行所 ふるさとだより

郵便番号 九四〇一二五〇二

ダイヤル局番 〇二五八七五

電話 二〇二九番

振替番号 〇〇六二〇三三三七四五

印刷所 吉野印刷株式会社